

2011年度
第2回

L-1グランプリ 報告



2010年、「地域活性化たから市」とともに産声をあげたのが、L-1グランプリです。

地域の産品を大切に「ローカルファースト」という概念の頭文字から名付けられたこのグランプリは、信頼し合う人々の絆（社会関係資本）によって磨きあげられた「地域のたから」を軸に、地産地消を推奨し、地域における経済循環だけではなく、集客基盤も併せて確立することを目指しています。

記念すべき初回のグランプリは、三重県津市において学校給食から生まれた名物の「津ぎょうざ」が選ばれました。受賞をきっかけに『地産地消運動』をさらに発展させ、地域ブランドをつくり上げ地域活性化へつなげています。

そして、今年の第2回L-1グランプリでは、地産地消の概念を飲食に限定せずに物産、まちづくりにも拡大。その地域で楽しむことを前提とした取り組みを幅広く対象とし、飲食・物産・まちづくりの3つの部門のそれぞれについて、地域を大切に考えている優れた取り組みを選定させていただきました。

2011年 受賞審査基準

【地域活性化に向けた明確なビジョン】

文化力・社会関係資本の活用
(巻き込み力)

地域の全体最適化
(費用対効果・波及効果・集客効果)

地域に対する誇りの復活
(郷土愛の醸成)

オリジナリティ

受賞結果

飲食部門

★グランプリ★
宮崎のB級グルメ
肉巻おにぎり



圧倒的に味がよく、地域ブランドとして定着。



準グランプリ
小田原 井

食材だけではなく、伝統工芸品の小田原漆器を使うこだわり。

物販部門

★グランプリ★
越後糸魚川
南蛮1エビ



南蛮エビという名称にこだわり、地元密着のPR戦略が進む。



準グランプリ
静岡
丸子紅茶

お茶の産地として有名な静岡において、日本初の紅茶ゆかりの地を発掘。

まちづくり部門

★グランプリ★
YOKOSUKA軍港めぐり



数々のハードルを乗り越え、世界的な広がりをもった集客が可能なたからへと昇華。



準グランプリ
京都向日市
激辛商店街

あえて激辛という文化を商店街でつくることでインパクト。

【2011年度L-1グランプリ審査員】



大江 和俊氏
(観光庁 観光経済担当参事官付 主査)

沢登 次彦氏
(株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター センター長)

島田 昭彦氏
(株式会社クリップ 代表取締役社長)

中尾 隆之氏
(日本旅行記者クラブ全国土産業通選手権初代TVチャンピオン)

福井 正興君
(公益社団法人 日本青年会議所 会頭)

受賞した取り組みの中には、マスコミ取材を通じた知名度向上があったり、首長とのつながりを深めたりするなどの効果が生まれています。また、審査員から継続的にアドバイスを頂き、さらなる発展を視野に入れているケースもあります。

これからも、各地で地域を輝かせようと日夜取り組む人々にとって、さらなる発展へとつながる気づきをもたらすべく、L-1グランプリが担う役割は高まっています。